

とべとべ



No.88

題 字: 村井龍全 (水墨画家)

イラスト: 杉崎英利 (NPO法人ヒーリング北海道)

昭和48年1月13日第3種郵便物承認

HSK通巻番号612号 (毎月10日発行)

発行 2023年 (令和5年) 3月10日

編集人 札幌市中央区南8条西2丁目5-74-402

NPO法人「飛んでけ!車いす」の会

吉田三千代 発行番号第88号

電話 011-215-8824 (FAX共用)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

定 価 100円 (会員は会費を含む)

目 次

- P2 Special Thanks! (寄付御礼)
- P3 車いす国別一覧
- P4-5 カンボジア整備講座
- P6-7 ウクライナへ車いす
- P8 車いす届けました/届きました
- P9 カレンダー市/車いすの学校
- P10 ありがとう! ボランティア
- P11 プリヂェストンBsmile事業報告
- P12 お知らせ・掲示板

車いすを運んでいただきありがとうございます

寄付者：7人

車いすのご提供ありがとうございます

寄付者：7人

ご寄付ありがとうございます

● 寄付金

寄付者：54人

● カレンダー

寄付者：36人

● リングプル、アルミ缶ほか

寄付者：12人

● 切手・書き損じはがき

寄付者：2人

● その他

寄付者：5人

Wheelchairs delivered to 82 Countries

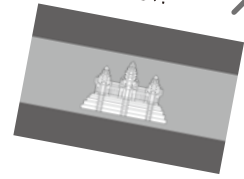
◆アフリカ・欧州地区		◆アジア・太平洋地区		⑳ ベトナム	601
① ベラルーシ	11	① アフガニスタン	20	㉑ シリア	4
② ベナン	17	② バングラデシュ	46	⑳ フィジー	9
③ ブルキナファソ	24	③ ブータン	1	㉒ ミクロネシア	12
④ エジプト	2	④ カンボジア	218	㉓ バヌアツ	6
⑤ ガーナ	17	⑤ 中国	67	㉔ 東ティモール	3
⑥ ケニア	27	⑥ インド	23	㉕ ソロモン諸島	10
⑦ レバノン	1	⑦ インドネシア	130	㉖ サモア	4
⑧ マラウイ	24	⑧ イラク	5	㉗ 台湾	10
⑨ モーリタニア	2	⑨ ヨルダン	6	㉘ パラオ	5
⑩ モロッコ	11	⑩ 韓国	39	◆南米・中米・北米地区	
⑪ モザンビーク	1	⑪ キルギス	11	① アルゼンチン	16
⑫ ナミビア	1	⑫ ラオス	31	② ボリビア	4
⑬ ルーマニア	8	⑬ マレーシア	116	③ ブラジル	16
⑭ セネガル	1	⑭ モンゴル	30	④ キューバ	24
⑮ 南アフリカ	6	⑮ ミャンマー	53	⑤ ドミニカ	5
⑯ タンザニア	16	⑯ ネパール	139	⑥ エルサルバドル	57
⑰ チュニジア	6	⑰ パキスタン	50	⑦ ホンジュラス	12
⑱ ウガンダ	3	⑱ パプアニューギニア	31	⑧ ジャマイカ	9
㉒ ザンビア	25	㉒ フィリピン	244	⑨ ニカラグア	31
㉓ ジンバブエ	3	㉓ ロシア	10	⑩ ペルー	14
㉔ ナイジェリア	21	㉔ サイパン	2	⑪ セントルシア	1
㉕ エチオピア	5	㉕ シンガポール	25	⑫ ウルグアイ	14
㉖ ルワンダ	4	㉖ スリランカ	60	⑬ パラグアイ	8
㉗ カメルーン	5	㉗ タジキスタン	3	⑭ コスタリカ	8
㉘ ガボン	6	㉘ タイ	437	⑮ チリ	4
㉙ マダガスカル	10	㉙ トルコ	3	⑯ カナダ	2
㉚ ウクライナ	30	㉚ ウズベキスタン	46	⑰ メキシコ	2
◆日本(国内リサイクル)	158			⑱ エクアドル	32

2023年2月15日現在(網掛け部分は2022年10月16日以降の増加分)

すおすだい カンボジア

< JICA 事業報告 >

「すおすだい」は
カンボジアの
クメール語で
「Hello」
だよ!



スオスダイ!

JICA 草の根技術協力事業担当の上杉です。今号も『「すおすだい」カンボジア』と題して、本年度から開始された JICA 草の根技術協力事業について紹介します。

車いす整備技術伝える 現地ワークショップ



今回は1月31日～2月3日、2月28日～3月3日にプノンペンで開催された車いす整備ワークショップについて紹介します!

参加団体は、障がいのある女性を支援している Cambodian Handicraft Association、障がい者支援を行っている Phnom Penh Center for Independent Living、同じく障がい者支援を行っている Disability Development Services Program、車いすの製作・配布を行っている Association for Aid and Relief, Wheelchair for Development の4団体となりました。

この4団体からスタッフや車いすユーザーが参加し、2回合わせて8日間のワークショップに、延べ32名が参加しました。

1回目のワークショップ初日には、各団体の代表に加えて、カンボジア社会福祉省から3名が出席し、一緒に整備講習に加わり体験をしたほか地元メディアも取材に来て頂きました。「飛んでけ」からは、整備講師として浅田孝二さん、山崎司さん、佐藤則夫さんの3名、会計&お世話係として小林志津子さん、そ

して私の計5名が渡航し、高湿度かつ30度を超える気候の中、予定した活動を全て終えて元気に帰国することができました。

ワークショップ後のアンケートでは、参加者全員が講習内容に満足の意を示し、さらに参加団体の中には、2回目のワークショップ終了後「自分の団体でも同じワークショップを開催したい」と言ってきた団体もありました。

今回は全体として成功したと評価していますが、細かい修正点や今後やらなければならないことも見えてきました。3回目のワークショップは今年の11月以降を予定し、さらに4回目で一区切りとします。今後どのような活動に成長していくか、ホームページやSNSでチェックして見守ってください。

それでは、チュオップ・クニア・パール・クラオイ!
(また今度!)

カンボジア事業のウェブサイトは
こちらからどうぞ。



■和やかに整備講座



JICA 草の根カンボジアプロジェクトで車いす整備講座を現地で2回開催しました。プロジェクトは全4回の予定なので半分折り返したところです。

会場は、当会理事近澤洋太さんのご厚意により、ブノンペンで営業しているリサイクルショップの一画を借りました。ブノンペンは想像していた以上に都会で、商品は豊富で、同じカテゴリーの商品を扱う店が集積しており価格もリーズナブル。あっという間に必要な物をそろえることができました。

「参加者の技量」を懸念しましたが、整備知識をある程度持った各団体のスタッフや障がい者を補佐する方々が参加していて、もともと技術ポテンシャルが高い人たちばかりだったのでクリアすることができました。講習時の各班の雰囲気は、1回目こそ初対面同士で参加者間の会話も少なめでしたが、2回目になるとなじんできたのか会話も増え、時々笑い声も上がって、そばで見ているだけでも良い感じに皆で協力しながら講習が進むようになりました。

私たちは単に講座を開催するだけではなく、「教えたことが受講者に伝わったかどうか」を見るため、受講者ごとに評点を付ける「スキルマップ」という手法を採っています。結果は集計中ですが、技術力の高い参加者及び講習の雰囲気の向上から、きっと目標値達成(KPI達成)をしてくれると思っています。(浅田)



■活気あふれる街並みに将来性感じる

ブノンペンは人口約220万、札幌よりちょっと多いくらいですが、街の印象としては大都市。新しいビルがどんどん建っていて、とても活気があり、みなさん礼儀正しく穏やかでにこやかで働き者です。

ブノンペンというのは「ペン夫人の丘」という意味だそうで、昔、裕福なペン夫人が川を流れてきた仏像を拾い上げ、近くの丘に祠を作って手厚く祀ったことから名づけられたそうです。今そこは観光名所の「ワット・ブノン」という寺院になっています。

さて、私は海外へ行くと必ず日本では食べられないような珍しい果物を食べます。今回は「釈迦頭」と「アップルマンゴー」をいただきました。

「釈迦頭」というのはお釈迦様の頭の螺髪のようなでこぼこのある果物でシュガーアップルともいいます。黒豆のような種があり、果肉は白くて甘くて癖もなく柔らかい。輸出には不向きだそうです、みなさん機会があればぜひトライを。

もうひとつ、ワークショップで受講者のお1人がご馳走してくれたのが「アップルマンゴー」。いわゆる日本の高級マンゴーとは全く違うものです。緑色の小ぶりのリンゴのような丸い形で、現地の方たちは酸っぱいマンゴーと言っていました、皮をむくと黄色くて甘くておいしかったです。

街のあちこちにマンゴーやザクロの木があって、こんなおいしい果物が年中食べられるなんてうらやましいですね。さあ、次はどんな果物にであえるかなあ。(小林)



■カンボジア活動報告会

5月20日の定期総会の後、カンボジア事業についての中間報告会を行います。現地でのワークショップの様子を紹介します。カンボジアの魅力についてもお伝えする予定です。会員以外の方も参加できますので「カンボジアの雰囲気を感じたい」「『飛んでけ』整備班の活躍を見たい」という方は、ぜひお越しください。

(上杉)

※P12 掲示板参照

ウクライナへ車いす150台発送 ～全国プロジェクトに「飛んでけ」も参加

プロジェクトは「Japan Wheelchair Project for Ukraine (オールジャパンでウクライナに車いすを届けよう)」といい、「飛んでけ」をはじめ、これまで国内で使われなくなった車いすを再生して海外に送ってきた日本のNPO4団体(※)と大手海運会社の商船三井と日本郵船(ともに本社・東京)、国際輸送会社の三協(本社・横浜市)の7者がオールジャパンでスクラムを組んで実現しました。当面の目標500台のうち295台について既に発送しています。

第1便は、さくら車いすプロジェクトのCIL・かなべの145台を日本郵船グループがコンテナ輸送を無償支援して2022年暮れに神戸港を出発、2月中旬にポーランドのグダニスク港に到着。2月24日までにウクライナ・キーウへ運ばれました。

「飛んでけ」の30台を含む第2便は、希望の車いすの110台、海外に子供用車椅子を送る会の10台の計150台で、商船三井がコンテナ費用を、三協が国内輸送費用と通関費用などをそれぞれ無償支援して、1月末にコンテナ船に積み込まれました。3月15日にポーランドのグダニスク港に到着、ウクライナへ運ばれました。

ウクライナ側の受け入れ団体は「フューチャー・フォー・ウクライナ」(FFU)で、今回のプロジェクトはFFU 役員のオレナ・ニコライエンコさんからのSOSから始まりました。FFUは(ア)

(※) さくら車いすプロジェクト(東京都・広島県)、希望の車いす(東京都)、海外に子供用車椅子を送る会(東京都)、「飛んでけ! 車いす」の会(北海道)

ロシアの軍事侵攻から1年、厳しい状況にあるウクライナからのSOSを受け、車いす500台を送る全国的なプロジェクトに「飛んでけ! 車いす」の会も参加し30台を送り出しました。道内外からの寄付金も67万5000円に達し、戦火の中で苦しむ車いす利用者への暖かいエールとなっています。

※新聞記事の掲載期間は 終了しました

(イ) ウクライナ人によるウクライナ人のための医療NPOとして戦争被害を受けたウクライナの人々を支援するために設立されました。優先的な支援分野の一つが車いす提供をはじめとする医療支援ですが、ウクライナでは車いすが高価なこともあり、以前から車いすは常に不足し、ロシア軍の攻撃で、車いすがないと動けない被災者が日に日に増しているそうです。国内の医療機関からは車いすを求める声が多くFFUに寄せられていて、車いす500台、さらに子供用の車いすの提供が日本側に期待されました。

FFUではポーランド・グダニスク港に到着した車いすをウクライナ国内の病院まで運びます。オレナさんのメールによると、今回はウクライナ西部テルノーピリの地方医療行政当局からの要請を受けて地方の複数の病院に計130台の車いすを送るそうです。

第1便、第2便が発送された後の2月21日、参加4団体がオンライン会議を開きました。全国からの寄付金は合計110万円に上り、各団体の車いす提供台数に応じて整備費用と運賃に充てることになりました。第3便について各団体から提供見通しが示され、「飛んでけ」の30台を含めて最大250台程度を送ることができそうです。



オレナ・ニコライエンコさんから 感謝の言葉

(フューチャー・フォー・ウクライナ(FFU) ポーランド
ゼネラルマネージャー、FFU 戦略開発部長)

「困難な状況下、ウクライナの人々のことを心配してくださり、『ウクライナの人々に車いすを』プロジェクトに参加して下さる日本のパートナーの方々に心から感謝申し上げます。私たちはこのプログラムを、戦争で被害を受け、日常生活で使用する車いすを必要とするウクライナの人々を支援するために始めました。私たちは、車いすの素晴らしさを知っています。車いすは人々の日常生活を助けてくれます」 (要旨抜粋)

ウクライナ事業へのご寄付ありがとうございます

寄付者：50人

車いす 届けました！ 届きました！



タイ東部のナコンチャーシーマ県に届けた車いすの利用者さんから喜びのメールをいただきました。同じくウドンターニー県で学校を運営しているトムさんの仲介で、当会が利用者さんの体形に合わせた車いすを選定・整備し、ルーツ・オブ・ジャパン（モノココ）様の海外コンテナ便で海を渡りました。タイではバンコクから同県まで馬場善昌さんが車いすを運んでくれました。多くの方々の手を経て今回も車いすを届けることができました。（吉田）

「おばあちゃんとお母さんと一緒に3人暮らしです。生後2週間ほどから成長異常が出て、皮膚が黄色くなりました。当時の生活も厳しく病院に通えませんでした。集落の診察所に行って注射を打ってもらうくらいでしたが、次第に症状が悪化して体中の筋肉が弱っていきました。同時に脳の発達も止まり、知能も2～3歳ほどで全く止まってしまいました。現在、お母さんは日中は出稼ぎ労働に出て家を留守にしています。おばあちゃんと二人きりになることが多いですが、これから家の中も楽に移動できるようになれるし、市場や近くの買い物や家で栽培している野菜の収穫などを、おばあちゃんと一緒にできることを期待しています。このたびは私たちにこのような素晴らしい贈り物を提供していただき、大変ありがとうございます！」



◀ ヤーイウォン・オンさん（37歳）

▶ スックケーソン・ブンさん（43歳）



「数年前の交通事故で半月ほど入院したのがきっかけで手足が完全にマヒ状態となりましたが、今回、日本の方から車いすを提供していただき大変感謝しています。今までは妻に何もかも頼る身でしたが、この車いすがあることで家の中のことから庭の仕事までいろいろとできるようになると思います。これからの生活を大変楽しみにしています。車いすを提供して下さった方々に大変ありがたく思っております」

カレンダー市 3年ぶり開催 オリジナル版も好評販売

■リサイクルカレンダー市



1月5日、丸3年ぶりとなるリサイクルカレンダー市をチカホで開催することができました。

今回は、企業・団体・個人(P2参照)からカレンダーや手帳 800冊を寄付していただきました。コロナウィルス対策として売り方をごくシンプルにし、「組み合わせ自由・2部で 500円」というセット販売を試みました。売り上げは7万601円。売価で割ると140人ほどの方々が買ってくれたこととなります。3年ぶり開催にしては上出来、と自負しています。

売れ残ったカレンダーは、札幌市リサイクルプラザ(通称『リサイクルプラザ宮の沢』)に引き取ってもらい、市民に自由に持って行ってもらう形で再々リサイクルしました。「とんでけ!」が大事にしている“もったいない精神”を貫くことができました。(照井)

■2023年の「飛んでけ」オリジナルカレンダーを販売

昨年好評だった「飛んでけ!」オリジナルカレンダー。今年も「車いす」をテーマにした写真をホームページ等で一般公募し、さらに車いすの届け先から送られたお礼状の写真も加えた12枚で構成しました。車いす提供者の真心あふれるメッセージやお礼状に寄せられたご本人・ご家族の言葉も添えました。(島田)



「三方よし」で社会的弱者支援 「車いすの学校」一区切り

社会的に弱者とされる人たちが集い、車いすの修理を通じてつながる「車いすの学校」は、休眠預金活用事業(日本民間公益活動連携機構)の助成を受け、コロナ禍と時期を同じくして3年間続けてきました。スローガンの「三方よし」は、近江商人の哲学にならって、「飛んでけ」・参加者・世間(世界)が、ともに「よし!」となるようにとの願いを込めました。

「飛んでけ」の整備班で活動する平均年齢73歳の車いす整備の「匠」たちにとって、「車いすの学校」は、「一日でも早く整備技術の伝承を始めなければ培った技術が途絶える」という危機感から始まった事業でした。参加者は障がい者、引きこもっている人、ベトナムからの技能実習生…とバラエティに富んでいました。しかし、参加者の心のうちに一歩入ってみると、実は誰にでも生きづらいときがあると感じました。そんなとき、心に浮かんだのは次のような思いでした。

『高齢者』や『社会的弱者』など自分をネガティブに捉えることはやめよう。これだけの“人財”が『飛んでけ』には豊富にいる。ごちゃまぜコミュニティで『お互いさま』の精神で助け合うことこそ大切なのだ。

「車いすの学校」は、この後、助成金が終了しても、第2、第4土曜日の月2回続けていきます。世の中には紛争や自然災害の犠牲になり、車いすを必要としている人がまだまだたくさんいます。このWin-Win-Winのクルクルを回していくことこそ、「飛んでけ」の専売特許かと思えます。ただ、商売(収益事業)でないので、資金面が「飛んでけ」の心配なところでもあります。皆さん、今後も応援よろしく願いいたします。(照井)

ありがとう！ボランティアの皆さん

5月で創立25周年を迎える「飛んでけ！車いす」の会の活動は、本年度も多くのボランティアに支えられてきました。会の活動のさまざまなシーンで骨身を惜しまず貴重な時間を捧げてくれた皆さんに心からの感謝の気持ちを込めてお名前、そして各グループからの一言をご紹介します。（順不同、敬称略）

●整備ボランティア

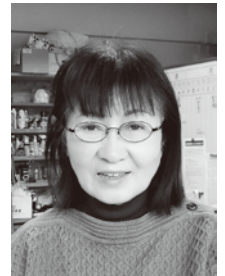
山崎 司、浅田孝二、関 公夫、松澤文夫、佐藤則夫、上野勝男、井下亮太、大浅美智子、吉崎邦博、中西重敏、高田賢一、三田 智、松岡寛樹、大野 浩



楽しいからやっています。まずは自分が楽しむこと。それで周りに希望や幸せを与えられれば満足です。深く考えないで、自分のできることをやるのがボランティアだと思います。一人はみんなのために、みんなは一人のために。（関 公夫）

●事務局ボランティア

大塚千枝子、鎌田洋一、川上純希、黒子祥子、小林志津子、山下栄子、吉田三千代



人生はどんな人と出会うかで決まると聞きます。「飛んでけ！車いす」に参加して、その言葉を実感しています。シニアの方々の車いすを整備しておられる姿や若い学生たちの真摯(しんし)にな姿に、私も何かお手伝いできることがあったらと思わずにはいられません。車いすを受け取って喜んでおられる方々の姿が皆さんを突き動かしています。（大塚千枝子）

●会報・メルマガ作成ボランティア

鈴木隆司、小林志津子、島田祐亮、上杉祐介、青木基成、吉田三千代

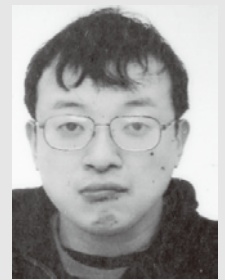
この数年はコロナもあり事務所に行けず、自宅でメールやクラウドなどを使って会報に掲載する情報づくり等を担当しています。昔もパンデミックは起こったそうですが、今の方が衛生環境がよくITも発達しているので、医療従事者さんやIT技術者さんたちの努力に感謝しつつ乗り越えたいです。（島田祐亮）



●ITボランティア

浅田孝二、上杉祐介、島田祐亮、上野 穰

作業は主に写真 SNS「Instagram」への投稿とホームページの「飛んだ！車いす」報告(お礼状)コーナーの更新です。車いす受領者の生活がスムーズになったのを知るとうれいす。IT技術の取得が車いすでの社会参加、就労につながると思ひます。（上野 穰）



●コーディネータボランティア

真島康誉、武田信悟、上田理子、萬田 芳、吉田三千代、鈴木隆司



先日、ベトナムの団体や旅行者と連絡を取って、車いすを選んだり車いすの受け渡しの方法や日時を調整したりするというコーディネーターの仕事、初めて一から最後まで担当させていただきました。車いすを受け取った方からお礼の言葉や写真を送ってもらえた時は本当にやりがいを感じました。（武田信悟）

●車いす集荷・配送ボランティア

石川法男、福山定男、辻 邦夫、佐藤則夫

「車いすはこの家で何年も家族と一緒に暮らしてきたんだな〜。車庫の奥からほこりまみれのまま出て来たり、新品同様なのが出てきたりいろいろな車いすがあります。「メンテナンスが終わったらどこかの国の誰かに使ってもらえるんだな」と思いをはせながら回収に行っています。（福山定男）



●学生ボランティア

川上純希、武田信悟、内山之愛、早川史織、
高原美那子、平野北斗

●運営ボランティア（理事・監事）

照井レナ、龍田成人、近澤洋太、島田祐亮、上杉祐介、麻雑悠子、
シンシア・エドワーズ、吉田三千代、長谷川聡、川上純希

TOBE
TOBE
88

ブリヂストン BSmile 事業で成果 ～コロナ後の「飛んでけ」を見据えて

この事業の助成金は、「BSmile 募金」として、従業員からの寄付金に会社が同額を上乗せするマッチングギフト制度を導入しています。「飛んでけ」を選んで助成金をくださった株式会社ブリヂストンならびに従業員の皆さまに感謝します。（吉田）

2022年1月から12月まで、「飛んでけ！車いす」の会システム再構築という目的で頂いた助成金を活用して、コロナ後に、途上国に継続して車いすを安定的に送り続ける新しい方法を開拓し、長年培ってきた内外の団体・個人との絆を大切にしつつ発展的な会とするために、東京、新千歳空港、札幌市内で活動を広げられました。（カッコ内は協力していただいた方々）

結果として、次のようなことができました。

新千歳空港内での車いすの受け渡し箇所を増設

旅行者が空港内で受け取る窓口の開拓
（北海道エアポート（HAP）川村貴志施設部長）

成田、羽田、関空、名古屋などの空港で旅行者が車いすを受け取る料金を安価にする契約成立

JAL ABC カウンターで受け取る車いすの料金の見直し
（JAL エービーシー営業戦略部 森暁彦課長）

車いすを海外に送っている団体を訪問して「モンゴル車いす送り」「ウクライナ車いす送り」を実現するきっかけとなる

（「さくら車いすプロジェクト」齋藤省代表、
「希望の車いす」谷雅史理事長）

旅行者が車いすを運ぶ時の重量やサイズを認可してくれる航空会社と出会う

預け入れ手荷物制限の緩和など
（大韓航空札幌支店 尾崎公一支店長）

東京での会員さんや関係者、大学生と意見交換をして交流を深める

東京近辺の会員さん等との交流、上智大学での講義・大学生との交流
（東京広報交流会ご出席の皆さん、上智大学社会福祉学科 新藤こずえ准教授）

事務所に収納できない車いすを預かってくれる場所を見つける

車いす 20 台を無償で倉庫に保管
（ハーテック・ロジ 森忠智専務取締役）

「飛んでけ」サポーターのご案内

●会員になる

- ・あなたの会費で世界中の障がい児・者に車いすが届きます。
- ・年3回会報を送ります。
- ・メールマガジンでイベント案内などが入手できます。
- ・車いすを無料で借りることができます。

■正会員	一般	5000円/年
	学生	1000円/年
■賛助会員	一般	2000円/年
	団体	5000円/年

●車いすを提供する

「家に使っていない車いすがある」「職場や知り合いが車いすを処分する」等の情報があればご連絡ください。無料で引き取ります。

●車いすを届ける

途上国に旅行する方で、車いすを直接届ける体験をしてみたい方はご協力ください。

●物品で支援する

リングブル・書き損じはがき・未使用切手・海外土産品・商品券(QUOカード等)・中古DVD/CDも集めています。

●寄付をする・会費を振り込む

【郵便振替口座】記号番号 02780-6-2973 【ゆうちょ銀行口座間振込】記号 19070 番号 5406461

【北洋銀行】札幌駅南口支店 普通 4117153 【ウェブ決済システム・Syncable】※詳細は事務局へ

掲 示 板

<お知らせ>

- ▼5月20日(土)に2023年度定期総会とカンボジア報告会を開きます。
総会(13:30~15:00、正会員に別途案内)
JICA草の根事業によるカンボジア活動報告会(15:30~17:00、参加自由・要申し込み)
懇親交流会(18:00~20:00、場所未定、参加歓迎、要申し込み)
- ▼4月22日(土)13:30~15:30「ウクライナの文化を知ろう」
市民活動プラザ星園1Fカフェ 定員25名(要申し込み)参加費500円
札幌在住のニーナさんがウクライナの食文化や衣装を紹介します。
- ▼「車いすの学校」は当会が培ってきた整備技術を学べる場所です。
どなたでも参加していただけます。毎月第2・第4土曜日の13:30~16:00に開校。
参加希望者は事前に事務局までご連絡ください。
今後の開校日(予定)
4/8、4/22、5/13、5/27、6/10、6/24、7/8、7/22
- ▼ボランティア募集(交通費実費支給)
事務所での軽作業、会報作成・編集、車いす整備、
英語で海外とのやりとり
- ▼「飛んでけ」事務所は火曜日、
土曜日の正午から18:00まで開いています。
ご不便をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

●問い合わせ

「飛んでけ!車いす」の会 事務局
電話/FAX 011-215-8824
メール: tondeke@bz01.plala.or.jp



飛んでけ!車いすの会

—2023年5月に25周年—